

第1回「支承損傷に伴う牛深ハイヤ大橋の恒久対策技術検討委員会」の概要

○委員長の選任

本委員会の委員長として松村委員を選任。

○委員からの主な意見

- 1) 本橋の特徴として橋桁が連続した長大曲線橋であることなどから、温度変化により橋桁が複雑な動きをする可能性がある。
- 2) 損傷状況から、支承の可動方向（橋軸方向）以外の鉛直方向の荷重などの複雑な力が加わって破損に至った可能性がある。
- 3) ローラーや支圧板などの損傷部品調査について、取り出し前の状態と取り出し後の内部の状態も詳細に調査が必要。
- 4) 橋の全体挙動を把握するための観測が重要。
- 5) 支承損傷の程度や種類毎の要因の推察が重要。

○第2回委員会の開催について

今回の意見を踏まえ、損傷部品の詳細調査を行い、その結果について、第2回委員会において報告する予定。